

# かけはし

| 広 | 報 | 誌 |

KAKEHASHI

HIMI



患者さんと病院と  
地域をつなぐ広報誌

## TOPICS ● トピックス

# 親子ふれあい 医療フェスティバル

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY  
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



海至丸総帆展帆

## CONTENTS ● もくじ

<b>TOPICS</b> 親子ふれあい医療フェスティバル	P.01
神田先生の診察室から	P.03
健康づくり教室開講	P.04
診療コラム	P.05
病院★ニュース	P.06
まちかど情報	P.07
病院からのお知らせ掲示板	P.07

### 病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として  
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

第4回

親子ふれあい

夏休み

心と体について学ぼう

医療フェスティバル

平成27年8月2日(日)に当院で第4回夏休み親子ふれあい医療フェスティバル「心と体について学ぼう」を開催しました。当フェスティバルは小中学生及びその保護者を対象に人間のからだのしくみや機能及び病気の検査・治療方法についての説明と体験を通して医療に興味を持ってもらうことを目的に平成24年度から毎年開催しています。第4回目となる今年には、氷見市、高岡市、富山市など県内をはじめ、羽咋市、七尾市、金沢市など石川県からも多くの参加があり、小中学生90名とその保護者60名の計150名が参加しました。参加者は年々増加しており、今年度は昨年より



30名も多く参加してもらいました。

はじめに、齋藤人志病院長から、「病院はどのようなことをしているのかを1日かけて見てほしいと思います。特に子供たちには体験コースの胃力メラ、骨折手術などの手技を体験し、将来は、医師、看護師、医療技術員として一緒に働いたら嬉しいと思います。自分から積極的に参加し、楽しんでください」と挨拶がありました。

講演1 「体を強くしよう」

整形外科 池淵 公博 准教授・院長補佐

整形外科 池淵公博准教授・院長補佐から、「体を強くしよう」と題して、将来、病気やけがをしにくい体となるにはどうしたらよいか、心も体も健康でいるいろいろなことにチャレンジできる状態を維持するにはどうしたらよいかについて講演されました。現在は昔

に比べて体格は良くなっているが、走る・投げる・跳ぶなどの運動の能力が低下している。その原因として、野球やサッカー遊び、泥んこ遊びなどの体を動かすことが少なくなり、時間・空間・仲間の3つの「間」が減ってきていることが説明されました。



また、生活習慣の乱れが、けがをしやすいつい体や生活習慣病のきっかけになるので、良く動いて、良く食べて、良く寝ることが大切であるとお話されました。

講演2 「食事で強くなろう」

内分泌・代謝科 伊藤 智彦 准教授



内分泌・代謝科 伊藤智彦准教授から「食事で強くなろう」と題して栄養素について講演され、炭水化物、脂質、タンパク質の3大栄養素に、ビタミン、ミネラルを加え、5大栄養素のそれぞれの役割やどのような食品が含まれているかなどが説明されました。

ビタミン、ミネラルが豊富に含まれ

ている野菜を摂らないと勉強ができなくなったり、物忘れをしったり、怒りっぽくなったりするので、野菜が嫌いな子供も多いと思いますが、細かく刻むなど調理方法を工夫をして、野菜をしっかりと食べるようにしましょうとお話されました。

講演3 「心を強くしよう」

総合診療科 神田 享勉 教授・副院長



総合診療科 神田享勉教授・副院長から「心を強くしよう」と題して、心を強くするために、朝は太陽の光を浴びる、リズムカルな運動をする、スキンシップ、朝食にバナナやヨーグルトを食べることが良いと説明されました。また、些細なことでも言葉で褒めることやハグなどの身振り手振りで愛を表すこと、バスデーカードなど物や形で愛を表すことが大事であること、そして親子や夫婦、友達などとの会話では、相手が出した言葉を繰り返すと関係がよくなることとクイズ形式でユーモアを交えてお話されました。

## 講演 4 「美容皮膚科について」

皮膚科 渡邊 晴二准教授

皮膚科 渡邊晴二准教授から、「美容皮膚科について」と題して、皮膚の加齢症状である「くすみ、シミ、シワ、赤ら顔」などは紫外線が原因であることが説明されました。当院では、薬剤を使い古い皮膚を新しい皮膚に再生して症状を改善する「ケミカルピーリング」や、強い光を短時間照射して症状を改善する「IPL」など、症例を示しながら詳しく説明されました。ケミカルピーリングは、ニキビに特に有効であることや、美容皮膚科とエステとの違いなどについて、IPLはシミ、そばかす、赤ら顔など幅広い疾患に対し有効であることなどがわかりやすく説明されました。シミが気になる方や肌のお手入れで疑問点がある方は気軽に皮膚科に受診してほしいとお話されました。



## 医療体験コース

### ① 内視鏡体験コース

実際に医療現場で使用している内視鏡スコープを胃や腸の模型の中に入れ、内視鏡の操作や写り方を体験してもらい、内視鏡で治療できることなどを学びました。



### ② 模擬骨折手術体験コース

骨折した大腿骨の模型を使い骨把持鉗子、ドリル、ネジを用いて整復する模擬骨折手術体験をしました。



### ④ 放射線画像体験コース

血管撮影装置やCT装置を使い、箱の中に隠した果物や模型の画像を確認したり、実際の血管やお腹の写真を見ながら診療にどのように使われているかを学んでいただきました。



### ⑤ 中央臨床検査部見学コース

生化学自動分析装置の見学や顕微鏡で血液や尿の状態を観察したり、参加者自身の血管を透かして血液の流れ方をみました。また遠心分離器で分離した血液で何がわかるのかを学びました。



### ⑦ 健康管理コース

超音波検査装置でフルーツゼリーの中身がどのように見えるかを確認したり、お父さんやお母さんのおなかの臓器をみました。また、聴診器で清涼飲料水を飲んだ時にのどを通る音を聴きました。



### ⑧ 救急救命コース

人気キャラクターに扮した医師、看護師、理学療法士と一緒に、救急救命の際は意識確認や付近の人に助けを求めることが重要であることを学びました。また、白衣に着替え、ハートシム人形で心臓マッサージの実践や除細動器を使い、救急現場さながらの救急救命の体験をしました。



③ くすり調剤体験コース  
内服剤に見立てたチョコレート菓子やラムネを処方内容に合わせて分包したり、絵の具を用いてカラフルな軟膏を混ぜ合わせて塗り薬を調剤するなど、薬剤師の仕事体験しました。



⑥ 手術室見学コース  
普段は入れない手術室の様子や手術機器を見学しました。臨床工学技士から心臓手術で使う人工心肺装置の説



# 神田先生の 診察室から

## お年寄りを理解する

### ●こんな悩みはありませんか

患者さんの家族が困った顔で言います。「家族の言つことも聞かず、好き勝手な生活を送っています。どうしたらよいでしょうか？」日本では大切な親と同居することが模範とされています。しかし、お年寄りのわがままには辟易することはよくあります。氷見市では高齢化率は35%にも達し、実に氷見市民3人に1人が高齢者という状況です。(図1)

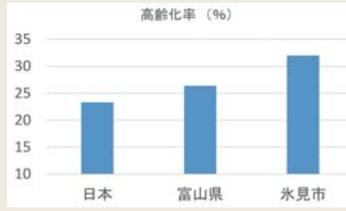


図1 65歳以上の高齢化率(%)

### ●お年寄りの気持ち

お年寄りの多くにみられる特長は、一度悲しみを感ずるといつまでも嘆き続けたり、周りの人から見放されるの

## 総合診療科

ではないかと不安になるため、人への非難や悪口、攻撃的な言動になることがあります。また、無気力や依存心が強くなり、人にしてもらう事が当たり前になったりします。

### ●「認知症」とは

このような言動の中で一番注意が必要な病気は認知症です。次の症状があったら病院に受診しましょう。

- ① 同じことを繰り返し何度も言ったり、聞いたたりする。
- ② 置き忘れや、しまい忘れが目立つ。
- ③ サイフを盗まれたと言って騒ぐ。

このような症状は、記憶ができなくなり、食事や物の置き場所が分からず盗られたのではと思ってしまうからです。また、次のような症状は\*アパシーが考えられます。

「感情の起伏が少ない」「周囲に対し無関心」「日常生活機能ができなくなる」など高齢者にみられる症状です。ついで多いのはうつ病ですが、症状として「物事に興味がなくなり不安感がある」「食欲がなくなり、体重が減る」「眠れ

# 神田 享勉

TSUGIYASU KANDA

ない」などです。このよう方は一度総合診療科へ受診しましょう。

### ●認知症の危険因子

認知症になりやすい生活や性格は「新聞購読、読書がまれ」「パートナーを要するレジャーが乏しい」「散歩をしない」「自己中心的な性格」などです。認知症にならないためには次の3条件を守ると良いでしょう。

- ① ウォーキングをする。
- ② 睡眠をしっかりとる。
- ③ 和食中心の食事と乳製品を食べる。

### ●ご家族の対応

ご家族の対応としては、「相手や場に合った挨拶をする」「穏やかな表情や態度で話しかける」「冗談を言う」などです。そして、ささいなことでも言葉で褒め、身振りで愛情を表して、物や形で愛情を示すことです。このような動作でいたわりの連鎖が起きて周りも和んできます。私も外来では患者さんへ愛情のある言葉で話しかけています。

\*アパシー  
アパシーは普通なら感情が動かされる刺激対象に対して関心がわかない状態のことを言い、興味や意欲の障害と考えられている。



へき地巡回診療

## 神田 享勉 ★ 略歴

### 【略歴】

- 昭和 53年 3月 金沢医科大学医学部卒業
- 平成 20年 7月 金沢医科大学地域医療学部門教授  
金沢医科大学氷見市民病院総合診療科科長
- 平成 22年 4月 金沢医科大学氷見市民病院院長補佐
- 平成 25年 6月 金沢医科大学学長補佐
- 平成 27年 6月 金沢医科大学氷見市民病院副院長

### 【所属学会】

- 日本内科学会
- 日本循環器学会
- 日本糖尿病学会
- 日本肥満学会(評議員)
- 日本病院総合診療医学会(評議員)



開講式(第1回) アルコールと肝臓  
『あなたの肝臓疲れていませんか?』

平成27年5月16日(土)午後2時から病院6階多目的ホールで金沢医科大学氷見市民病院「健康づくり教室」が開催され、80名の方に参加いただきました。今回で3年目を迎え、内容も更に専門的分野の講演で、充実したプログラムが組まれました。中には3年続けて受講頂いた方もおられ、皆さんが健康づくりや病気についての関心が高いことに驚きました。昨年と同様、5月から11月までに毎月1回、第3土曜日に6回のシリーズで開催されます。

始めに開講式では、齋藤人志病院長から、「多くの方が医療について学んでいたことで、健康寿命が延び、より充実した人生が送れることと思います。そのためにはこの講演をより良い内容で開催したいと思っております。是非、最後まで受講して頂きたいと思っております」と挨拶がありました。

第1回目は、消化器内科 浦島左千夫准教授が「アルコールと肝臓」あ

なたの肝臓疲れていませんか?』と題して講演し、アルコールが体内で分解される仕組みや、急性アルコール中毒症、アルコール依存症など



肝臓の病気の特徴や、アルコールの特性についてユーモアを交えて解りやすく解説されました。

第2回 水虫のはなし  
『しっかり治療したら治ります』

平成27年6月20日(土)に第2回が開催され、76名の方に参加いただきました。今回は皮膚科 渡邊晴二准教授から「水虫のはなし」しっかり治療したら治ります」と題して講演されました。

今回の話は、「水虫」



という身近なテーマであり、また冒頭で「おそらく会場の約半分が水虫に罹患している」と述べたことから、その多さや身近さに非常に驚いている様子でした。また画像も多くあり、参加者は興味深く話を傾けていました。

最後に、水虫の予防策として、マットを清潔に保つ、足をタオルで拭く等が効果的であると強調され、「水虫」と思ったら、自分で判断することなく皮膚科を受診し、正しい治療を行うことが重要であると説明がありました。参加者の中には、終了後、先生に駆け寄り自分の足を見せて相談している姿も見られ、関心の高さがうかがえました。

第3回 知っておきたい認知症  
『備える・支え合うために』

平成27年7月18日(土)に第3回が開催され、約100名の方に参加いただきました。

今回は、中村老人看護専門看護師が、「知っておきたい認知症」備える・支え合うために

うために」と題して講義されました。まず初めに、「専門看護師」について説明があり、その後、高齢者の7人に1人という割合で認知症になることと、10年後には5人に1人という割合になるという予測推移の説明が行われました。

一言で「認知症」と言っても、引き起こされる原因(病気)や種類は様々であり、その種類によって症状も異なってくるということをお話し、その症状について1つ1つ細かく話されました。



今回の「認知症」というテーマは、非常に身近な病気であることから、参加者からは一歩踏み込んだ質問が多くみられました。

最後に、認知症の方との接し方(コミュニケーション)の取り方や認知症の予防についても講義されました。

# 診療コラム

## 病棟紹介

### 5階東病棟

5階東病棟は、一般・消化器外科を中心に、泌尿器科・耳鼻咽喉科の3科混合病棟で、主に手術を受けられる患者さんが入院されます。そのため、術前・術後の迅速な対応は勿論、幅広い分野での高い知識や細か



いことにも目が行き届くような看護が必要とされています。一見すると非常に厳しい職場環境のように思われがちですが、厳しいとは真逆で、いつも穏やかな網師長を中心に、看護師27名、看護助手4名、4月に入職した新人看護師4名がいつも笑顔で業務を行っています。

病棟の今年一年間の基本目標は

① 疾患・看護への知識を高め、安全で質の高い医療を提供するために看護の充実を図る

② 知識・技術の向上を図るべく、院内外の研修会等に積極的に参加する

③ 地域医療・連携に貢献する

病棟が5階の東側にあるため、病室の窓からは氷見の街並みを見下ろすことができ、天気の良い日には真っ青な海が一望出来る良い環境にあり、皆さんの癒しになっています。患者さんが1日でも早く、元気に笑顔で退院を迎えられるように、病棟スタッフ一丸となって頑張ります。

### 5階西病棟

5階西病棟は、循環器、消化器、呼吸器、腎臓、内分泌、総合診療科、高齢医学科等の内科混合病棟です。また、病棟内に陰圧設備のある結核病床が5床あるのも特徴です。



仕事の内容としては心臓カテーテル検査・内視鏡検査が円滑に行えるように、また、疾患の薬剤治療の援助などを行っています。終末期の患者さんも多く入院しておられるので、本人・家族が納得した入院生活が送れるよう、安全で安楽に過ごしていただけるように看護を提供しています。

— 昨年の4月より看護師が2名で患者さんの元に伺うPNS（パートナーシップ・ナーシング）を導入しました。「自立、自助の心」与える心「複眼の心」をモットーに、若手看護師の育成、看護の可視化に伴うお互いの知識・技術の向上、チームでの協力の心をもつことで患者さんに「質の良い看護」「安心で安楽な看護」「早期対応」ができるよう日々取り組んでいます。2名の看護師が、患者さんの元にもまごころと笑顔をお届します。皆さん、何か要望があれば遠慮なく看護師にお話してください。



## 第1回 医療安全研修会

平成27年7月24日(金)17時30分から、当院6階多目的ホールで「平成27年度第1回医療安全研修会」が開催されました。講師に横浜相原病院長・金沢医科大学理事、吉田勝明先生をお招きし、「医療安全とメンタルケア」と題して講演が開催されました。受講者は院外施設からも参加され234名でした。

吉田先生は精神科領域がご専門で、精神保健指定医、日本医師会認定産業医、認定音楽療法士等の資格をお持ちで、診療のほかにも講演や著述に日々、多忙なお越しいただきました。

昨今の医療を取り巻く環境は「専門化」「高度化」とともに医療技術の日進



月歩によりますます複雑化しています。また、患者さんのもとより、職員相互のコミュニケーションが一層重要になってきています。先生のご経験から「新型うつ病」についてどのような対応に心がけるか等のご講演はまさに時宜を得たものでした。参加者からは「内容が具体的に大いに参考になった。」

「今後このような機会を設けていただき、今回参加できなかった人にも直接講演を聴いてもらいたい。」と非常に好評で感銘の声が溢れていました。講演中のビデオでは、「感動で涙があふれた。」「悩み解決の糸口になった。」などの感想もありました。ストレスの時代といわれる現代、ストレスを避けていくことはできませんが、周りのちよつとした心遣いが大切であることを改めて感じることができました。

## 第1回

### 院内感染対策講習会



平成27年6月25日(木)17時30分から、当院6階多目的ホールにおいて第1回院内感染対策講習会が開催されました。講師は当院小児科藤木拓磨講師で、「ワクチンで防ぐ院内感染」と題してお話があり、職員約220人が聴講しました。

医療従事者は、感染症に罹患する可能性が高いだけでなく、感染症を

患してしまつと自分自身が感染源となり、患者や同僚に感染を拡大させてしまうため、被害者と加害者の側面を持つこととなります。そのため、感染を拡大させる加害者とならないために、強い感染力をもつ、麻しん(はしか)、水痘(みずぼうそう)、風しん、ムンプス(おたふく風邪)などは、ワクチン接種での集団免疫により感染の拡大を防止することが重要であることが説明されました。B型肝炎ワクチンについては小児が患した場合、リスクがとても高いため、母子感染だけでなく、父や祖父母からの感染を防ぐ必要性が説明されました。最後に、医療従事者の義務として、自分の抗体価を知り、積極的にワクチンの接種をすすめられました。

今回は、私達にも身近な話題であり、患者や同僚だけでなく、家族も感染症から守るためにワクチン接種し、発症を防ぐことが重要であることを痛感した研修会でした。



## ふれあい看護体験

「看護の心をみんなのこころに」

5月21日(木)外来1階ホールにて、ふれあい看護体験が行われました。

体験では、血圧測定、健康相談、手洗い評価、フットケア、ビニール袋を使った簡易エプロンの作成コーナーと、掲示では専門・認定看護師の役割やりんごステーションの紹介がありました。

前回まで土曜日午後に実施していましたが、今年度は、平日の午後に変更したため、午後受診の付き添い、お見舞いの方などが多数参加されました。

健康相談では、「看護師や栄養士から具体的な指導が受けられ、生活習慣病の注意内容を知ることができた」や「手洗いの評価では、「こんなに手が汚いと思わなかった。これからはしっかりと洗いたい」などの意見が寄せられました。また、今年から新たなコーナーとして、ビニール袋を使った簡易エプロンの作成では、「簡単に作れて楽しかった」などの意見が聞かれました。



## 柳田布尾山古墳

柳田布尾山古墳は氷見市街を望む柳田の山に築造された前方後方墳で、平成10年に発見され、話題になったことを覚えておられる方も多いと思います。

三世紀末から四世紀前半に建造され、全長107.5メートルは前方後方墳として日本海側では最大の規模を誇ります。その大きさから、日本海の海上交通を押さえ周辺地帯を掌握していた有力部族の首長の墓ではないかと推定されています。平成13年には国史跡に指定されており、保存状態は

非常に良好であったが、残念ながら盗堀を受けていたため、副葬品などはほとんど見つかっておりません。現在は遊歩道や古墳館などがあり、古墳公園として整備されています。

日々忙しく現代を過ごしておられる方も多いとは思いますが、時には古墳を歩きながらゆっくりと古代の人々の暮らしに思いをはせるのもいいのではないのでしょうか。



## 病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

## 患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

## 患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

## 病院からのお知らせ掲示板

● ヘルシークッキング  
教室開催

日時：平成27年10月10日(土)  
10時～13時まで

場所：創作工房「ひみ」  
氷見市北大町

内容

- ① 講演 「糖尿病と肥満」  
講師 内分泌・代謝科 永井 貴子 助教
- ② 「減塩で低カロリーなバランス食」のクッキング法

参加費：860円



● ブルーサークルinひみ  
市民公開講座開催

日時：平成27年11月7日(土)  
14時から

場所：金沢医科大学氷見市民病院  
6階多目的ホール

参加費・事前申込：不要

## 表紙について

「海王丸」は商船学校の大型練習帆船として誕生し、「海の貴婦人」と賞賛される美しい帆船です。昭和5年に進水してから平成元年までの59年間、106万海里(地球約50周)を航海しながら、11,200名もの海の若者たちを育てました。

現役引退後は、「世界で最も美しい湾」とも言われる富山湾に、立山連峰と新湊大橋をバックに優雅にたたくみ、訪れる人達の心を癒しています。

## 編集後記

病院横にある「ふれあいの森」からは濃いみどりとミンミン蝉の声が押し寄せ、盛夏を感じさせていましたが少しずつ勢いが和らいできています。

今年も真夏の暑い日に、一日にわたって「第4回親子ふれあい医療フェスティバル」が開催されました。夢や希望を抱いた小学生から、職業を見据えた中学生までの幅広い子供たちがたくさん参加し、健康についての知識を学びレントゲンや薬の分包、骨折の手術体験など多くの体験をすることができました。積極的に医療体験する子、怖々と体験している子などそれぞれに違った体験をしている様子を見ることができて学び方の違いについて、私たち医療スタッフも新たな発見をすることができました。

医療の現場では日々学びと実践が繰り返され、脈々と新しい世代へ受け継がれていきます。今年の夏に医療体験をした子供たちのなかから将来の医療人が生まれ、一緒に仕事ができる日が来ることを期待しています。

腎臓内科講師・広報委員会委員長 斎藤 淳史

## ■広報誌「かけし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。